備陽史探訪

第 248 号
発行
備陽史探訪の会

備陽史探訪の会の目的
備後を中心とした
地域の歴史を研究し、
愛郷の精神を涵養する。
（会則第１章第２条より）

新備後今昔物語（１）

会長　田口義之

中条いわし

今から四百年ばかり昔の話という。

備後国安那郡中条村（現神辺町）出身の佐貫坊という山伏が、信州のとある山中を旅していた時のことだ。日暮れて山中の一軒屋で宿を乞うと、中から「どうぞ」という女の声がした。入ってみると老婆が一人で住んでいた。見ると髪は黒々として、声は娘のように張りがある。佐貫坊は気味悪く思ったが、山中で他に宿りする場所はない。請じられるまま囲炉裏端にすわった。

老婆も最初は佐貫坊を何をするかわからない旅の修験者として警戒していたが、佐貫坊に備後訛りがあるのを知ると、とたんに打ち解けて話しかけてきた。

「あんたは、備後の人でやんしょう」

「いかにも私は、備後の出身で、安那郡中条村の生まれです」

佐貫坊が中条の出身であることを知ると、老婆は喜んで、聞き返した。

「中条、わしも中条の生まれじゃ。今でも鰯（いわし）がぎょうさん取れるかのう…」

「いわし…」と聞いて、佐貫坊は絶句してしまった。

「なにゅういようてんなあ、中条は海から四里も離れとる村ですでえ…」

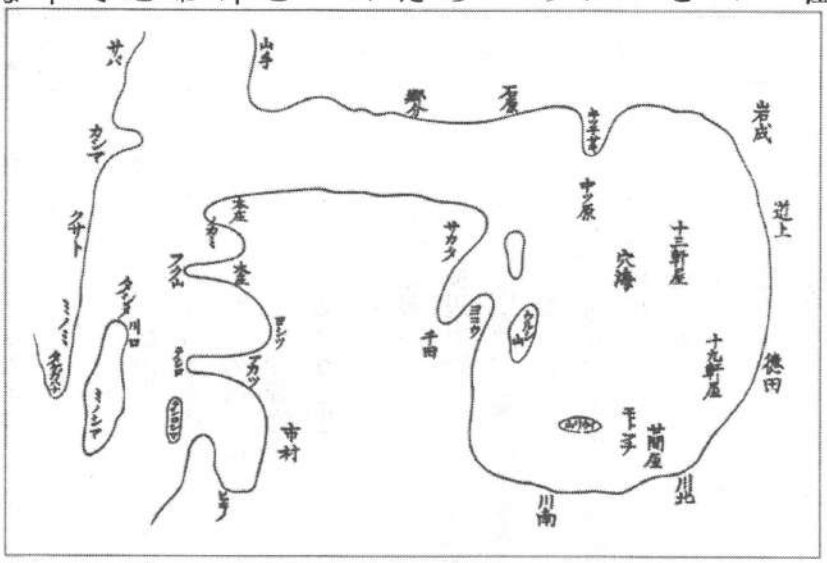
佐貫坊の話すのを聞いて、老婆は悲しそうに身の上話をはじめた。

「そうきゃあ、そうじゃろうのう。わしが村を捨てたんは、何百年も昔の話じゃけえのう」

佐貫坊は息を呑んで、この不気味な老婆の話しに耳を傾けた。父は漁師でいわしを取るのが上手だったこと、娘の頃に人魚を食べてしまったこと、人魚には不老不死の力があって死ねない身体になったこと、子や孫が死んで村に居ずらくなり国を出たこと…。

◇

神辺の昔話で有名な「中条いわし」の伝説だ。実は、人魚を食べて不死



『福山志料』の穴の海図

目次

新備後今昔物語（１）……（会長　田口義之）　1
研究レポート
古野上と長者町Ⅱ
中世野上村から近世野上村へ……（瀬良泰三）　4
ワンショットレポート……6
調査報告
中世石造物の調査報告…（篠原芳秀）　7
読者ノート
因島村上氏系譜に関する一考察……（木下和司）　8
ワンショットレポート……10
行事報告
せとうちエレジー参加行事
ぶら探訪に参加して（２）……（小林悠一）　11
ワンショットレポート……13
田口義之の備後の古墳30選　13
初期の横穴式石室
山の神古墳と長波古墳……14
事務局日誌

現在の会員数 187名



会員数は６月上旬現在の数字です。その後の増減があるかもしれません。（いっちゃん）

紀要『備陽史研究』の原稿募集

『備陽史研究』は、備陽史探訪の会紀要です。会員の皆様が個々に調査・研究をした成果を発表する場でもありますし、後世伝えたい郷土の歴史を残す場でもあります。

国立国会図書館や広島県立文書館をはじめ、市内図書館にも寄贈しており、広く一般の研究者や歴史に興味のある地元の人の目に触れる機会も多くなります。

地道に積み重ねてきた日々の研究も、多くの方々の目に触れることができるようになって初めて意義のあるものになりますし、それを元に多くの人が議論することで、郷土史研究は更に深まります。

原稿は、随時募集しています。郷土史発展のために奮ってご応募ください。

【応募方法】
下記宛て郵送かメール
info@bingo-history.net

備陽史探訪の会

会報「備陽史探訪」の原稿募集

会報「備陽史探訪」２４９号の原稿を募集中。備後郷土史に関するものは何でも差支えなし。論文・論考・資料提供・イラスト・写真・俳句・随筆・昔語りなどなど会員の皆様の投稿をお待ちしております。

昭和の頃の何気ない日常の思い出話も、今では立派な歴史の証言。日本中どこを探してもないココだけの歴史情報お待ちしております！

原稿は事務局編集部まで。規定は 16 文字×120 行以内。写真に一行コメントや 100 文字以内のコメントでもOK。なお、原稿は返却しませんので、必要な方は複製をお願いいたします。また、内容によって、研究レポートや郷土史探訪あるいは読者ノートなど、項目の判断させていただいたり、文字量の調整をさせていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

備陽史探訪の会

公式サイト　http://bingo-history.net/
事務局メール　info@bingo-history.net

事務局日誌

◇４月４日（土）ぶら探訪「古代山城　茨城を歩く」参加 27 名
◇４月４日（土）花見会　参加 23 名
◇４月５日（日）中世城館測量調査　中止
◇４月 11 日（土）「近世福山の歴史を学ぶ」参加 21 名
◇４月 15 日（水）古文書解読会　参加５名
◇４月 18 日（土）「中世を読む」参加 14 名
◇４月 24 日（金）古文書入門講座　参加９名
◇４月 25 日（土）中世石造物調査　参加７名
◇５月５日(火）ぶら探訪「今度は「親と子の古墳“ぶら探訪”」だ」参加 30 名
◇５月 10 日（日）中世城館測量調査　中止
◇５月 16 日（土）「中世を読む」参加 24 名
◇５月 20 日（水）古文書解読会　参加７名
◇５月 23 日（土）「大人の博物館教室」参加 20 名
◇５月 23 日（土）中世石造物調査　参加５名
◇５月 29 日（金）古文書入門講座　参加６名

びんご歴史クイズ 65
旧深津郡に関する質問編

①深津郡は奈良時代に出来た新しい郡ですが、どの郡から分かれた郡でしょうか？
Ａ沼隈郡　Ｂ安那郡
Ｃ品治郡　Ｄ備中国小田郡

②国史跡「宮の前廃寺」の伽藍配置で正しいのは次のどれでしょうか？
Ａ法隆寺式　Ｂ四天王寺式
Ｃ法起寺式　Ｄ薬師寺式

③郡の東北部に存在した荘園「坪生庄」の荘園領主は次の内誰だったでしょうか？
Ａ天皇家　Ｂ摂関家
Ｃ東大寺　Ｄ石清水八幡宮

④戦国時代末期、深津高地の南端「王子山」に城を築いた武将は、次の内誰でしょうか？
Ａ杉原盛重　Ｂ小早川隆景
Ｃ足利義昭　Ｄ毛利元康

◇毎回ページ数が増減するこの会報。仕方がないのです、会員の皆さんからの投稿の数が、ページ数に直結してしまうのですから。◇一方で、印刷物は４の倍数のページ数が望ましいとされており、編集担当の準備していた記事を泣く泣く（？）落とすこともあります◇ワンショットレポートが今回多いのも、そんな理由で掲載を見送った記事を復活させたからです。しかし、写真が多いと、それはそれで華やかでいいですね。（Y．K）